

第2回 アクティブステージ研修

令和3年10月18日(月)
奈良市立高円こども園

講演「発達を支える多様な遊び」

講師 帝塚山大学 教授 岡澤 哲子氏

《理論編》 . . . 多様な運動遊びの必要性

身体発達の一定の方向性

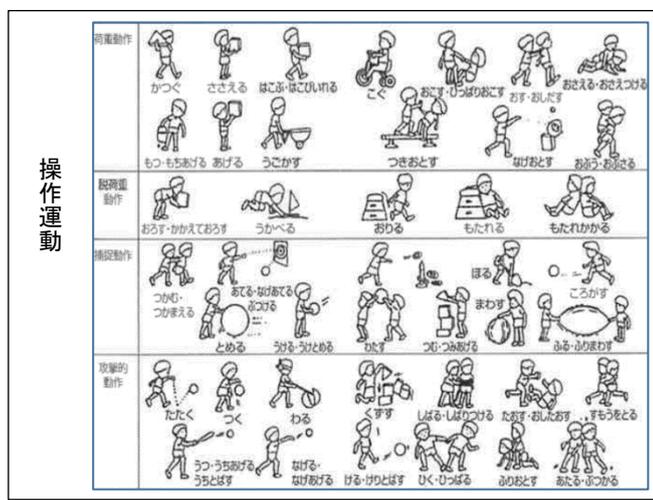
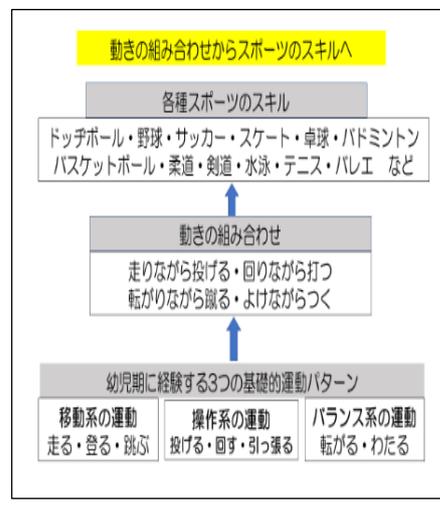
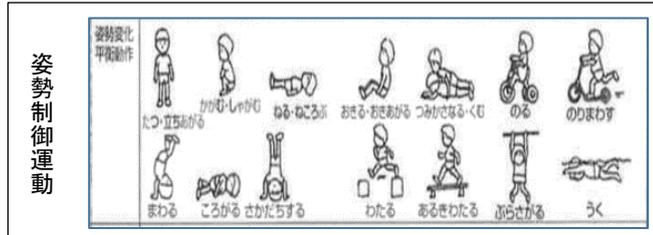
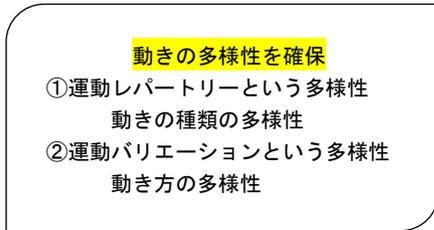
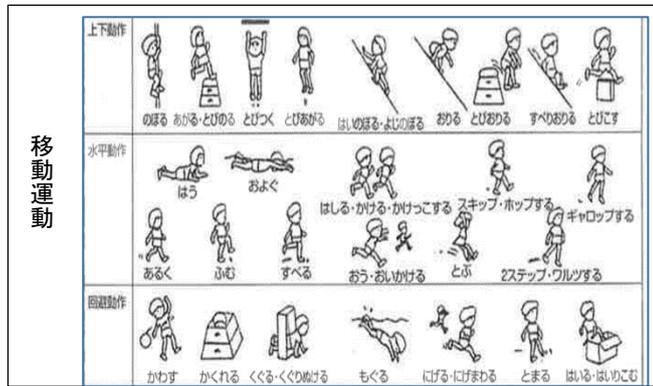
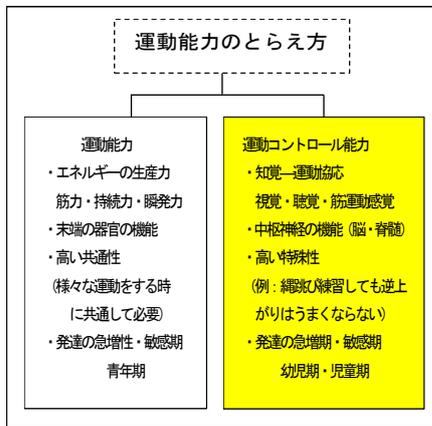
- 1、頭部から脚部への方向性
- 2、中心から末梢への方向性

運動発達と環境

- ★運動発達が、言語・探索・操作・社会性・食事・対人関係の発達に非常に密接に関係していることをしっかり押さえる。
- ★動きの獲得は、毎日繰り返して、愛情を持って関わる必要がある。
- ★獲得の喜び・誇り・満足感などの感情を大切にしながら周囲の人的環境がモデルになる事が必要（子ども・保育者・家庭）
- ★乳幼児期は感覚（知覚）と運動の協応動作である運動コントロール能力を向上させるのに最適な時期。
- ★乳幼児期は神経系の発達の敏感期であり、この時期は様々な運動遊びを通して、動きを習得していく（動きに関する神経ネットワークをさまざまに構築していく）絶好の機会。



動きの種類



《実技編》・・・身近な物を利用して、動きの多様性を取り入れた遊びを楽しむ

トントントントン
はいポーズ



ひげじいさんの替え歌で、好きなポーズや友達のポーズを真似る。

タオルを跳び越し



床にタオルを十字に並べてジャンプする。4人グループで動きを創作して跳んでみる。

はいはいフーフー
ヨットレース



折り紙でフーフーヨットを作り、ゴールのタオルまで息を吹きかけ動かす。

タオルを使って遊ぼう



タオルを利用して、「基礎的運動パターン」を意識した運動遊びを作って遊んでみよう。

タオルトンネル



並んで座り脛にタオルをかけて足を上げ、その下を友達がかぐる。くぐったらすぐにトンネルになる。

タオルボール投げ



タオルを真ん中で結んでもう一度結びボールにしてゴール（逆さ傘）めがけて投げる。

☆体を動かすと笑顔になり、心も体もポカポカ温まり元気が出ました。

【参加者の声・気づき】

- ・タオルという身近な素材でいろいろな遊びが出来ることが分かりました。また、つなげたり、形を変えたりすると、何通りもの遊びになりとても楽しいことも感じた。
- ・アイデアと保育者の楽しむ気持ちがあれば、もっともっと遊びは広がっていくことを知ることができた。
- ・子ども達とアイデアを出し合いながら、いろいろな動きが出来る遊びを保育に取り入れていきたい。
- ・タオルを使った遊びは、コロナ禍でも友達と出来る遊びで、今まで出来なかったことができる工夫をまねしたいと思った。
- ・「リズム遊び」や「体動かし」の遊びを取り組む時に、運動の種類に視点を置き、その中の多様な動作におけるそれぞれの持っているねらいを明確化し、実施することができた。

など

作成者 幼児教育アドバイザー 杉浦 順子